

道德科
三年
地域教材

三次市立神杉小学校

広げよう しみずき環境守のタイ

今日も神杉小学校の朝は元気なあいさつではじまります。玄関前では校長先生と児童会の人々が笑顔であいさつをされています。

「おはようー…みちるもねえ。」

「おはようーけいちゃんね。」

「ねえねえ、今日から私たちも四年生だね。私、総合的な学習の時間の勉強が楽しみなんだけど、

どうなしようを勉強するのかな。」

「環境学習だよ。」

「環境学習？環境学習って、きれいな環境を作ること勉強するんだよね？神杉はきれいな町だ

と聞いてよ・・・」

そっぴらなけいちゃんさんを横目に、私は一年前のことを思い出していました。



神杉公衆衛生推進協議会の
平岡さん

神杉地いきでは、かみすき環境守のタイ神杉公衆衛生推進協議会の方が中心となり、「神杉歩こう会」が行われます。私は二本松牧場近くの空き地で行われる「歩こう会」のイベントに毎年参加さんかしています。イベントでは、輪投げやビンゴゲーム、二本松牧場の織田さんが育てておられる牛のえさをやり体験、そして「歩こう会」の役員さんが用意されるおいしい焼きいもを食べられることを毎年楽しみにしているからでした。昨年は三年生になったこともあり、お母さんから、

「どうもは二本松牧場でのイベントから参加しているけど、みちるも三年生になったんだし、コミュニティセンターから歩いてみちるも。」

と言われました。わたしは「歩こう会」の出発場所である神杉コミュニティセンターから歩くことにしました。

秋になり、ぐっと気温の下がった朝八時。私は姉と二人で神杉コミュニティセンターの前に集まりました。神杉公衆衛生推進協議会の方から説明を受け、私たちは二本松牧場に向けて歩き始めました。「コミュニティセンターのつらきを通り、国道沿いまで歩いて行きます。時々たばこのすいながら落ちていますでしたが、全く言いつつは歩むことはあります。」

「コミ、全然ないね。神杉の町はきれいなんだね。」

わたしが姉に話しかけると、姉はすこし顔をくもらせましたが、またすこし笑顔にもなりました。

二本松牧場まであと少しと近づくと、長い坂にさしかかったようです。

「ああ、今年もひどいことになったのお。」

「なんでこんなことをするんじゃないののお。」

歩こう会に参加された方から、ため息交じりの声が聞こえてきました。

「何かあったんかね？」

姉の方を向くと姉は下を向いて悲しい顔をしていました。そして私の手を引いて無言で声のする方へ歩いて行きました。

その場所について、わたしは思わず息をのみました。坂道が少しはなれた林の中にたばこのゴミがすわっていたのです。よく見ると弁当の箱、シュースやビールの空き缶などがたくさん捨てられていました。参加された方の中にはしゃ面をおりて林の中に入り、ゴミを拾おうとした人もいましたが、

「あぶないからやめんさい。市役所の人と相談するから。」

と「歩こう会」の役員さんに止められていました。



二本松牧場に続く道

林に捨てられた「ゴミ」はそれだけではありませんでした。さらに道を進むと冷蔵庫が捨てられていました。その先にはなんと十本以上のタイヤが投げすてられていました。「二本松牧場の近くには、農薬をまくときに使う機械がそのまま捨てられています。」「ゴミ、全然ないね。神杉の町はきれいなんだね?」とつぶやいたときの姉の顔が、頭の中じつかにできまじりました。

二本松牧場では今年も「歩こう会」の役員さんが中心となり、ゲームや、牛のえさやり体験など、楽しいイベントが行われました。しかし、私は心から楽しむことができませんでした。

歩こう会からの帰り道、姉が話し始めました。

「私が四年生の時、神杉公衆衛生推進協議会会長の平岡末夫さんが学校にいられて、神杉の不法投棄（ふほうじつぎ）についてお話をされたの。」「ふほうじつぎね?」

「そう。今日、林の中にたくさんゴミが捨てられていたのを見ただでしょ。本当なら決められた場所に捨てないといけないのに、それを守らずあんな所に捨てているじつぎを言いのよ。」「なんでそんなじつぎをするの?」

「今、「ゴミを捨てるときは分別をしないといけないこと、みちる知ってる?」

「うん、だって前、お父さんと一緒にビンや缶をびんくんに分けて入れて捨てたじつぎあるよ。」「

「そう。でも中には『分別をするのがめんどくさい』『ゴミ捨て場まで持って行くのがめんどくさい』という勝手な理由で不法投棄する人がいるの。」「

「えっ?……。」「

「神杉だけじゃない。和田から三次公園に行く道でも不法投棄があると言われていたよ。日本全国で不法投棄は問題になってい



不法投棄された噴霧器
(ふんむき)

るの。」

「知らなかった。」

「そうね。でもみちるも来年は四年生。神杉公衆衛生推進協議会の方の活動から、環境を守る取組についてしっかりと学んでほしいな。」

「うん。不法投棄がなくなって神杉をきれいな町にしたいもんね。」

私の言葉に姉はいつもの笑顔でうなずいてくれました。

「どうしたの？朝の会始まるよー！」

わたしは、けい子さんの声を聞いて、急いで教室に向かいました。

「今日から私も四年生。私もかみすぎ環境守りタイの一員なんだ！」

みちるの四年生が今、始まりました。



平岡さんのお話を聞いて自分にできることを考える4年生

【取材に協力してくださった人】高杉町在住 平岡 末夫 様

【文責】浅邊 将邦

(深田 真規子)